

---

# 「嫌な事は出来るだけ見ないように」

マリオネ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

「嫌な事は出来るだけ見ないように」

### 【Nコード】

N0058BA

### 【作者名】

マリオネ

### 【あらすじ】

夜空と小鷹のSSです。

時系列等は特に気にせず、なんとなく楽しんでいただけたら幸いです。

登場人物の言葉づかい等が変でしたら、指摘していただけると幸いです。

おそらく2話で終わります。

## 1話

放課後から俺の一日は始まるといっても過言ではない。なぜなら俺には友達がいらないからで、そんな奴の学校生活なんて想像に容易いだろうが、アレだ。

朝、学校に来る。昼、飯を食う。夕方、何をしようか迷う（もちろん一人ですることに限る）という繰り返しになる。ほら、なんとなくキツイ様な気がすると思う。

ただ、俺には幸い、大切にしなければいけない妹がいる。たぶん、この妹がいなかったなら俺はきつと学校だけでなく、家でもテレビ位にしか喋る人間（？）がいなくなり、学生生活と青春と言う掛け替えのない大事な時期をおそらくもつと陰鬱に過ごしていただろう。言っておくけど、寂しくないなんて思っただことはない。

い。ベッドに入れば明日の学校に不安を覚え、朝起きたら休み時間と言う拷問 Time に陰鬱な気持ちを覚える。そんな学校生活。青春。

なんて感じの学校生活を送っていたのだが、転入してからヒヨンなことで知り合った三日月夜空という美少女と隣人部という部活を立ち上げることになった（ほぼ無理やり）。

まあそこからなんかやや色々ありながらも隣人部にも人が集まって、なんだか友達作りに必要な為の技術やら経験値を集めながら色々したとおもう、いや、集めるために色々やった。

ロードトゥリアージュだ。色々みんなで作ったものの、特に友達が増えたわけではなく、むしろクラスメートや学校の一般学生からはもっと嫌われた（近づき難くなった）と思う。たぶんきつとそれは現実だと思う。

それらの詳しい出来事は野暮なので俺は語りたくない。むしろイタイ事ばかりで言葉に直して傷になってしまったら嫌なのでいろいろ

仕舞っておこうと思う。ふふふ心いたい。

「おい小鷹、気持ち悪い顔して変な顔をするな気持ち悪いぞ。また妄想か？まさか私と同じくエア友達を作って心で会話してたのか。寛大な私はその低俗な猿真似を許してやるから

取りあえずそのエア友達を話してみる。クオリティ如何によっては死んでもいいんだぞ」

「そんなんつくんねえよ！」

後気持ち悪くはないんだぞ、夜空よ。え、そんな顔すんなよきもちわるくないよホント。

「…安心しろ。私も鬼ではない」

いや、悪鬼の類にしか思えないよ。あの幼馴染は強く成長したんだな。うん、すげーや。

「まあ良い。今日の私は気分がとても良いのだ。黙秘を許そう」

さあ崇めよとも言いたそうな顔をしている。教室でこの調子で喋るとは、おそらく今日はとても調子が良いのだろうが、その内容を聞くとおそらくこっちは落ち込んでしまっただろうから聞くのはよしとおこうと

思うんだけど、夜空は聞いてくれとばかりに顔をかがやかせている。聞かないけどな。

「何があつたんだ夜空。だろ、小鷹が言いたいことは。なに、心が読めるわけじゃない、単純だなあって感心してたところだ気にするな」

「なんなんだよ！？……しかも思ってること違うしッ！！」

ものすごい笑顔でこんなことを言うこいつは本当にすごいと思う。誰もが振り返るようなこの可愛い笑顔で違うこと言われたら破裂しそうになるんだろうな。でも違う言葉はきつと

出ないので（でも他の罵倒だろう、本人は罵倒とわかってるか知らんけど）その心配はしなくてもいいんだろうな。でもそういう心配もしてみたいな、なんて。

改めて良く夜空を見てみると本当に美少女だ。ほんとうに性格は神

様が絶対悪戯したとおもつ。悪ふざけだよ、神よ。

「改めて良く夜空を見てみると本当に美少女だ。」

「え、それ、あ、い?!」

しまった!口に出た!

「ああああああ!そうだ夜空!そんな気分いいなんて珍しいじやん!何があつたんだ!」

「……ぼそ……\*\*が……ぼそぼそ……」

なにかを呟きながら夜空は顔を真っ赤にしながら教室から出て行った。その後の放課後まで夜空は帰って来なかったが、正直助かったと思う。

「あ、今日部活休むのいうの忘れてた」

なんて他のことを考えてごまかすことにした。今日は金曜日なので月曜日まで夜空と顔を合わせることもないので、次ぎあうときにはお互い忘れてるだろう。

と言うわけで取りあえず理科なりに今日は部活に行かないとメールを送っておき帰ることにした。

f r o m 理科

今日は理科も用事があるので休むつもりだったので、夜空先輩に転送しておきます

どんな用事かって?きっと先輩の頭の中で理科は舐られているのでしよう。もっと卑猥な想像してくれてもいいんだぜ。ハアハア……

『ありがとう』と送り返しておいた。



もうなんだろう。噛んで冷静になったのか落ち着いたのかもうそれ以上は奇声を上げる事はなかった。

「ううう……今日はなんで休んだんだ……」

「ああ、家に荷物が届く予定だったから」

「嘘だな。人見知りか激しい小鷹が、宅配人から荷物を受け取るまでのプロセスを完了できるはずがないだろう」

「できるよ!!」

「むっ。そうだったのか。偉いぞ小鷹」

なんか褒められた。多分馬鹿にされているのだろうけど。

「もう用事は終わったのだろう。なら早くこい」

無茶な注文を……でもまだ時間的にも早いし良いかなって思うけど多少迷う。

「今から学校だと少しかかるぞ。なにかやるのか?」

「安心しろ」

なにがだろうか。

「今日の隣人部の部活は課外活動だ。お前の家の方角に出るつもりだから時間の心配はしなくていい。と言うことで決定だな。出来るだけ早く来い、場所は……」

なんか物凄い速さで決まっているけど

「ち、ちよつと待った」

「ん、なんか文句でもあるのか?」

「いや、色々いきなりすぎないか!」

そういう運びになった理由とかもつと教えてくれてもいいと思う

「来たらわかる」ブチっ

……切りやがったよあいつ。でも特にこれからの用事もないし、取りあえず準備でもするかな。

## 1話（後書き）

ありがとうございました。

私は夜空と理科が好きなので、次回はおそらく理科のSSを書くと思います。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0058ba/>

---

「嫌な事は出来るだけ見ないように」

2011年12月31日01時46分発行